

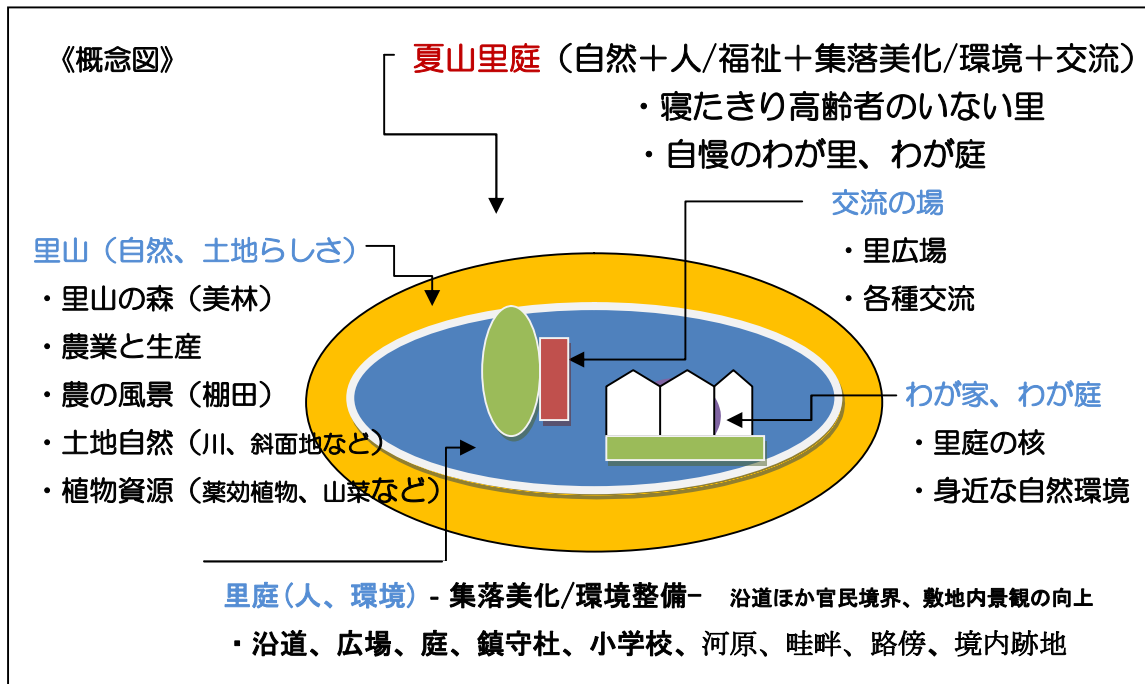
夏山里庭（新しい居住空間の形成）新潟県長岡市中集落 一抜粋一

■夏山里庭とは

夏山里庭とは、「中集落を大きな里の庭」と見立てて、山や河、棚田など起伏のある「山里の土地の良さ」を最大限に生かし、そこに住むわが里わが故郷を想う村人たち一人一人が生きがいややりがいを持ち、そして「住んでよかったこの村に」と思えるような美しい集落形成を最終ゴールにしています。

夏山里庭では、多面的な高齢者に利用しやすいみどりの場所づくりを中心的な事業と考え、寝たきり高齢者をつくらない村づくりをその目標に掲げ、それをどう形づくっていくかをテーマにしています。

■夏山里庭：イメージは伝統/農/生産/自然/創造と寝たきり老人がいない福祉の村、訪れる人に自慢できるわが里、わが庭



■取り組みの意義と目標

「夏山里庭構想」は、人とみどりの関係をあらためて捉え直して、共に共存していきながら住みよい地域社会を作っていこうというもので、中集落の震災復興の大きな柱であり、復興のスローガンとして究極的には「寝たきり高齢者のいない村づくり＝福祉の村づくり」を標榜しています。

この取り組みにおける目標としては①コミュニティを基盤とした安定的社会の形成（寝たきり老人をつくらない集落づくり）：ソフト面と②空間ストックの老朽化を踏まえた新空間の形成（集落の土地の良さを引き出す景観整備）：ハード面の2つがあります。

さて、これを進めるために、私たちはみどりを媒体とした集落づくりを考えました。そ

して、このみどりについては①みどりの環境整備で変わるものと変わらないものを考えること（変わらないもの：緑と人の関係を考える、変わるもの：時代性、社会性を踏まえた形）や、②運営組織と住民参加（役割分担）③民間活力の導入（ボランティアグループとの協働）④計画から管理（マネージメント）へ、などなど実現のための手段が必要となり、加えて時代と目標を重ねることや話題性のある多彩な催しや情報発信など広報による活気づけなども大切になってきます。

これらをしっかりやることができれば、その副産物として、実は①日本のふるさと（集落と里山の風景）の維持と再生②田舎の良さの再発見③都会と田舎の交流と居住④環境意識の向上や日本人観の醸成、などに繋がると考えています。ただこれらを実行するときの課題として①カネ：財源②ヒト：人材③ココロ：やる気④シクミ、シカケ：計画の立案と合意形成などが上げられ、以上を踏まえて多くの中集落の人たちと知恵を出し合いながら一歩一歩この事業を遂行していきたいと考えています。

1. 「寝たきり高齢者をつくらない夏山里庭づくり」とは

中集落内にできるだけ多様なみどりの場所を用意して、お年寄りたちがそこに出かけられるいくつかの選択手段（歩き、車いす、自動車など）を整備し、人と触れ合いたい、景色をゆったり眺めたい、花いじりがしたいなどの欲求や心理状況に沿った空間が処方されて、それらが周りの風景となじんでいけば、植物や自然から得られる癒しの効果は深いものになります。

このさまざまに配置された里庭は、気候がよくなったらお年寄りや精神的に疲れた人たちが屋外に出ていつでも、身体的な回復活動や気持ちを安らかにするために利用します。地域で暮らす人たちはその人たちの目的のために、水まきと花、樹木の管理活動を行います。

また、この里庭は地域の人たちが元気であることを確認する場でもあり、その人たちの語り（団らん）の場として利用します。そして、ここへは可能な限りモミジやアジサイで連なる道を歩いてきてほしい。

地域の人たちは、お年寄りが体力的な強さと持久力、前向きな気持ちや楽しみを増やすのを援助して、一緒にこの里庭を利用します。里庭は新しい趣味や興味の発達を促すこともできます。将来的には、舗道や路（小路）はこれらの里庭へ車いすで到達（アクセス）できるようにバリアフリー的な改善をします。

2. 夏山里庭づくりの3つの目標

①高齢者や障害者を地域で支える夏山里庭づくり（社会環境的關係性）

高齢者や障害を持っている人に自分の意欲と力量に合わせてお手伝いしてもらいましょう。例えば、広場や街路樹などの軽微な剪定やさまざまな管理仕事、家庭での軽作業や清掃、またオムツたたみや老人同士の話し相手、ホームヘルパーの雑務を手伝う補助など、このほか例を挙げればきりがありません。高齢者や障害者の方は、特に人との関わりがあることと人がいる環境がよいのです。

次に声かけ運動の推進です。境界沿いや屋敷内に植えた樹木や草花の様子を見ながら、是非、そこのお年寄りに声をかけていきたいと思います。身近な花植えや軽い労働を通して形成される小さな社会を大切に、是非、生きがいや喜びに繋げていきたいものです。

②自然（植物）と人と出会う夏山里庭づくり（生活環境的關係性）

老いと病の中で役割を失い、人に迎えられない寂しさや不安が情緒不安定さを益々助長していく高齢者や障害者に対して、医学や療法ということとは別に地域で何ができるんだろうかと考えてみました。

もちろん直接関わってあれこれとお世話することも立派なことですが、樹木や草花を通して何か閉じていた気持ちが開いていき、少なからず症状が改善されたらどんなにすばらしいことでしょうか。

まず、植物との関係から言えば、樹木や草花は美しい環境づくりにはうってつけの素材です。また体を動かすこと、例えば軽度の農作業や庭いじりはとても心身にいいと思います。土を掘り、種をまき、または苗を植え付けて丹念に水撒きや草刈をして育てたものを収穫するなどです。お花であればきれいに生けるとか人に差し上げて喜ばれるととてもうれしい気持ちになります。野菜や果実であれば、みんなで分け合い一緒に食べる楽しみもあります。

このように作業や集まりを通して心身両面の健康回復や慈しみの心を育てたり、人とふれ合うことの楽しさやうれしさを得ることができるのです。そして、これらはすべて生活に密着したごく普通の行動で日常的な行為です。このように自然（植物）と人との関係性を大切に、このような環境を中集落で構築します。

③みどりを通して美しく気持ちのいい夏山里庭づくり（自然環境的關係性）

高齢者や障害者が、光や水や空気や植物などの自然を身体感覚を通して、じかに触れていくことの大切さを挙げたいと思います。そして、このような身近な自然を感じる時に散歩がとてもいいのです。木漏れ日の下をゆっくりと歩きながらあちこちの家のお庭を眺めたり、窓辺に飾られたお花を楽しんだりしながら、近くの広場まで行く散歩です。広場ではベンチに腰をかけてゆっくりと自然を感じるということがとても気持ちがいいのです。ぼんやりと眺めているだけでもいいのです。

ところで、単に高齢者や障害者といっても実にさまざまな方がおられ、高齢や障害の程度もそれぞれに違っているわけです。ですから、なかには社会保障制度のもとで専門的な治療や療法を受けなければならない方達もおられます。

ただ、こうした方は別として社会環境、生活環境、自然環境のうち、ごく身近な身の回りの環境から高齢者や障害者を支え合う、言わば心の環境づくりが重要であり、これからのまちづくりでは大きなテーマになると私たちは考えています。